2021 7.19 vol.967

JA全農ウィークリー WEEKLY

2面 県域集出荷施設「近江米セントラルターミナル」完成（滋賀県本部）

完成した「近江米セントラルターミナル」（2面）

3面 JAファーマーズ四日市 三重県初のファーマーズ型店舗 グランドオープン（くらし支援事業部）

店内併設の農産物直売所「みえきたマルシェ四季彩」（3面）

三重県にオープンする「豊農米蔵produced by AKOMEYA TOKYO」（2面）

2 大型リゾート施設にオープンするお米の専門店「豊農米蔵」で国産米の消費促進（米穀生産集荷対策部）

3 JA農産物直売所「愛情館」20周年記念イベント実施（福島県本部）

4-5 海外拠点便り

6 JAズームイン（青森：JA八戸）

7 JAズームイン（長崎：JAながさき西海）

8 「長野県産りんご三兄弟サワー」新発売（営業開発部）

「横濱ハーバー 湘南潮彩レモン」新発売（神奈川県本部）

JAタウンショップ紹介 UMAIZOマーケット（群馬県）

Web版JA全農ウィークリーはこちらから
https://www.zennoh-weekly.jp/

Web限定

「全農チャレンジファーム広島・北広島農場」を開所（広島県本部）

都内の全農直営飲食店舗で「宮城県産食材フェア」開催（フードマーケット事業部）

News!

お米の専門店「豊農米蔵 produced by AKOMEYA TOKYO」がオープン

国産米の消費促進に向けてプロモーションを開始

米穀生産集荷対策部

全農は、7月20日に三重県多気町にオープンする「豊農米蔵」において、国産米の消費促進を目的としたプロモーションやイベントなどを開始します。

「豊農米蔵」は、日本最大級のリゾート施設「VISON」の一角にオープンする、お米の専門店です。店舗ではヴィソン多気㈱が飲食・物販事業を実施し、㈱サザビーリーグが運営するAKOMEYA TOKYOブランドとJAグループがコラボした店内で、ごはんのおいしさを楽しめる飲食提供、「ごはんのおとも」などのお米関連商品を販売します。また、稲わら細工づくりや田植え・収穫体験など、稲作や「米蔵」の雰囲気を味わえるイベントを実施するなど、店舗全体で「日本のお米」や「米食文化」の素晴らしさと、日常的な米の消費拡大に資する情報を発信する予定です。

本事業はJAグループのすすめる「みんなのよい食プロジェクト」の一環として実施します。お米の魅力を存分にお伝えし「よい食」を考えるきっかけを提案していきます。

詳しくはこちら →

スマートIC直結のリゾート施設「VISON」全景

稲穂がデザインされた「豊農米蔵」のロゴマーク

News!

県域集出荷施設「近江米セントラルターミナル」が完成

近江米の集荷拡大、JA検査業務の負担軽減へ

滋賀県本部

滋賀県本部は6月28日、栗東市（JA全農しが栗東総合センター敷地内）にて「近江米セントラルターミナル」の竣工式を行いました。

現在、近江米は大規模生産者への農地集積が加速化しており、個人調製フレコン出荷の増加、JA検査員の体制整備など、さまざまな現場課題を抱えています。「近江米セントラルターミナル」は、その課題解決を目的に建設されました。県域の集出荷施設を設置し、保管場所を確保することで、個人調製フレコンなどの出荷体制を整備します。また、当施設で全農検査員が検査を実施することで、JA検査業務の負担軽減を図ります。

このたび完成した近江米セントラルターミナルは、延床面積約5700㎡で、最大9000トンを収容することができます。乾燥時期の加湿に加え、近年長期化傾向にある多湿時期の除湿にも対応し、あらゆる環境下で安定した保管を行うことができます。

完成した近江米セントラルターミナル

News!

「JAファーマーズ四日市」グランドオープン

ファーマーズ型店舗は三重県で初の出店

くらし支援事業部

JAグループのスーパーマーケット運営会社である株式会社エーコープ近畿は6月24日、三重県四日市市に「JAファーマーズ四日市」をオープンしました。同店は農産物直売所とスーパーマーケット（Aコープ）が一体となったファーマーズ型店舗です。

㈱エーコープ近畿のファーマーズ型店舗は3店舗目で、三重県では初出店となります。四日市市をはじめ県内JAの農畜産物や加工品などを豊富にそろえた、同社最大規模となる50坪（約165㎡）の農産物直売所を併設しています。

精肉は三重県産の地元和牛「いなべ牛」など国産を中心に取り扱い、水産は地元で水揚げされた伊勢マグロ、トンボマグロなどの生マグロを筆頭に、鮮度と品ぞろえで地域一番店を目指します。加工品は特徴ある「地元JA加工品」や、JAグループオリジナルの「エーコープマーク品」「全農ブランド品」など、主に国産原料を使用した商品の取り扱いを充実させています。

店内併設の農産物直売所「みえきたマルシェ四季彩」

エーコープ近畿の正村栄邦社長は開店のあいさつで「地元JAや生産者との連携により、JAファーマーズ四日市を通して三重県産農産物をはじめ国産食材の魅力をしっかりと伝え、農業振興にも貢献していきたい」と意気込みを語りました。

詳しくはこちら →

JA農産物直売所「愛情館」20周年記念イベントを実施

今後も安全・安心・新鮮な国産農畜産物をお届け

福島県本部

福島県本部が運営するJA農産物直売所「愛情館」が20周年を迎え、6月19、20日の2日間、20周年記念イベントを実施しました。

イベント初日の19日には、愛情館出荷者協議会の小山忠義会長と渡部俊男県本部長が、お客さまへメッセージカード入りマスクを配布しました。小山会長からは「これからも生産者と共に安全・安心な野菜を届けていきたい」、渡部県本部長からは「地域の皆さまに愛されるお店を目指し、従業員一丸となって努力していく」と、日頃の感謝を込めたあいさつがありました。

メッセージカード入りマスクを配布

2日間のイベントでは、お買い上げのお客さまへ除菌ウエットシートのプレゼント、店内ポイント2倍、お買い得商品販売などを実施し、たくさんのお客さまにご来店いただきました。

「愛情館」では、20周年イヤーとして今後もお得な情報を発信し、これからも皆さまに安全・安心・新鮮な国産農畜産物をお届けします。

たくさんのお客さまにご来店いただきました

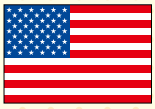
海外拠点便り

全農は海外ネットワークを活用した国産農畜産物の輸出拡大と、肥料・飼料原料などの安定的確保に取り組んでいます。今号ではニューヨーク（アメリカ）、サンパウロ（ブラジル）、ロンドン（イギリス）、北京（中国）の事業所を紹介します。

全農アメリカ株式会社

購買・販売両事業の北米戦略拠点

半世紀の歴史を糧に新たな可能性に挑戦



全農アメリカ㈱は1965年に米国・ニューヨーク市に設立された全購連駐在員事務所を前身とし、半世紀以上にわたり北米で事業を展開しています。業務は、肥料原料の調達と、日本産農畜産物の米国向け輸出の二本柱です。

肥料事業は、主にカナダ産のカリと米国産のリン安を買い付けし、日本へ輸出しています。また、海外農業や肥料情勢などの情報収集を行うとともに、肥料の安定調達に向けて海外取引先との関係強化に取り組んでいます。

輸出事業では、日本産食品全般の市場開拓と販売に挑戦しています。当社の子会社P&ZFINE FOODS社を通じた和牛・米の全米各地への販売、青果物・鶏卵の試験輸入、茶のプロモーション活動などを広く展開しています。

現在、米国はポストコロナに向けた移行期にあり、生活・経済活動は大きく変容しつつあります。この社会の変化を好機と捉えて、JAグループと海外をつなぐ事業の構築と発展に努めます。

カナダ取引先の肥料倉庫

現地社員

全農グレインブラジルホールディングス有限会社

ブラジル産穀物を集荷・輸出

飼料原料の安定供給を追求

全農グレインブラジルホールディングス㈲は、飼料穀物のサプライチェーンの構築と、さらなる安定供給を図る目的で2015年に設立されました。17年には穀物集荷・輸出会社であるALZ社に資本参加し、アジア向けを中心とした穀物供給に貢献しています。

ブラジルは世界有数の穀物（トウモロコシ・大豆）輸出国であり、今後も生産量および輸出量の拡大が見込まれています。農畜産物の生産量増加のポテンシャルは世界最大であり、今後、世界の食糧供給国としての存在感はますます大きなものになると予想されます。中でもトウモロコシと大豆は過去30年間で生産量と輸出量が大きく伸びており、今後も世界シェアを牽引すると見られます。日本は世界有数のトウモロコシ輸入国であり、その他の穀物についても輸入への依存度が高く、ブラジルは重要な輸入相手国であり続けることは間違いありません。さらなる飼料穀物の安定供給を目指し、日々邁進しています。

生産農家と現地社員

生産現場への生育調査

全農インターナショナル欧州株式会社

国産農畜産物のおいしさをヨーロッパに発信

ロンドンの日系小売店で日本の青果物をPR

全農の欧州における海外拠点は長い間、ドイツ・デュッセルドルフ事務所がその機能を担っていました。欧州連合（EU）による日本からの牛肉輸入解禁にともない、和牛の輸出拡大に向けて、2014年3月に全農ロンドン駐在事務所が設置されました。翌15年3月に現地法人である全農インターナショナル欧州㈱が設立され、現在に至っています。

和牛・米を中心とした国産農畜産物や、輸出専用日本酒ブランド「TOKYO Z1」、日本米を使用して英国で製造している「KoméBiru（米ビール）」などの加工品の販売促進を行っています。

コロナ禍によって、英国では飲食店向けの食材販売が大きく減少するなど、深刻な影響が発生しています。その一方で拡大したホームデリバリー需要に対応するため、Eコマース向けの取り組みを強化しました。今後も英国・EUにおける国産農畜産物の輸出拡大に向け、取り組みを強化していきます。

全農北京事務所

転機をむかえた老舗駐在事務所

全農北京事務所は、1979年の中国の改革開放直後、80年に設立された㈱組合貿易北京駐在員事務所を起源とする、40年余の歴史を有する老舗駐在事務所です。

かつては中国から日本へのさまざまな原材料、製品の供給基地として機能していました。その後、中国経済の伸長などによりその機能が減少しています。昨年、全農が上海に現地法人を設立し、経済活動において一定の役割を果たすこととなり、北京事務所は今後、役割を変えていくことになります。

比較的日本人が馴染みやすい上海、香港、台湾とは異質な環境にある首都「北京」を肌で感じる拠点を持つことは非常に重要です。今後も北京事務所は中国の核心をウオッチしていきます。

事務所が入居している北京発展大廈

事務所スタッフ

JAズームイン

県南地域髄一の果樹産地
地産地消の拡大 消費拡大図る

JA八戸（青森県）

桃の収穫

JA八戸は、2009年4月に八戸市と三戸郡の4JAが合併し誕生しました。青森県の太平洋側南部に位置し、夏季は冷涼で冬季は雪が少ない気候を生かした農業が盛んです。

県南随一の果樹の宝庫

管内では、6月から12月にかけ、多種多様な果樹を生産しています。6月はブルーベリー、サクランボ。7月はプラム「大石早生」。8月は桃「あかつき」や「川中島白桃」。9月はプラム「秋姫」、リンゴ早生種「つがる」。10月はリンゴ中生種「紅玉」「王林」。11月はリンゴ晩生種「ふじ」、洋梨「ゼネラル・レクラーク」などが代表的なものに挙げられます。

攻めの販売戦略

昨年デビューしたサクランボ「ジュノハート」は主に南部町や三戸町で生産しており、県や町と連携し、生産者の拡大、収量の増加を目指しています。県内外で高い評価をいただいているプラムは、2020年度は約1億6千万円を売上げ、全国農業協同組合連合会経営管理委員会会長賞を受賞しました。

プラムの目揃会

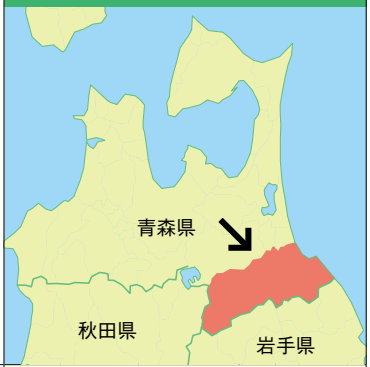
受賞にあたっては①重量選果機導入による作業の省力化②中晩生種の導入推進による長期販売③収穫適期指標を作成し、適期収穫と園地ロスの解消につなげ、県平均以上の単収および販売単価を実現の3点が評価されました。

プラムの選果

食の「安全・安心」地産地消の拡大へ

同JAは有機肥料を使った土づくりに力を入れ、生産工程管理の導入や関係機関と連携した残留農薬分析検査を実施しています。さらに、県外への視察研修、講習会や目揃会を開催しています。また、広報誌で管内の果実を使用した「地場産レシピ」を紹介し、管内在住の親子を対象に「親子料理教室」も開催しています。管内の農畜産物について学んでもらうことで、消費拡大を図っています。

親子料理教室



概要	令和3年3月31日現在
正組合員数	1万911人
准組合員数	4644人
職員数	315人
販売品取扱高	93億1千万円
購買品取扱高	30億4千万円
貯金残高	889億円
長期共済保有高	3762億円
主な農産物	リンゴ、プラム、イチゴ、洋梨「ゼネラル・レクラーク」、ナガイモ、ニンニク、ネギ、ピーマン、トマト、米、肉牛

JA ズームイン

「西海みかん」「長崎和牛」地理的条件を生かし振興

JA ながさき西海（長崎県）

一輪の花贈呈

ＪＡながさき西海は、佐世保市・平戸市・松浦市・佐々町・小値賀町を管轄とする、広域合併したＪＡです。第55回農林水産祭（園芸部門）で天皇杯を受賞した「西海みかん」、第10回全国和牛能力共進会（肉牛の部）で日本一を獲得した「長崎和牛」をはじめ、長崎県北地域の地理的条件を生かし、農畜産物の積極的な生産販売に取り組んでいます。

合併20周年記念 花とはがきで感謝

２００２年３月31日に長崎県北地域の４ＪＡが合併し発足した「ＪＡながさき西海」は、本年で20周年を迎えます。これまでともに歩んできた正組合員の皆さまに感謝の気持ちを伝え、これからも経営理念に基づき邁進する決意を表明するため、同ＪＡは合併20周年記念事業を行っています。４月には青年部員から女性部員の皆さまへ「一輪の花贈呈」、５月には組合員の皆さまに「感謝のはがき」送付を行いました。今後もさまざまな記念事業を行う予定です。

繁殖牛

「水稲ＴＣＣ戦略」所得向上と生産拡大を

同ＪＡでは現在、経営理念である「信頼」（Ｔｒｕｓｔ）「貢献」（Ｃｏｎｔｒｉｂｕｔｉｏｎ）「挑戦」（Ｃｈａｌｌｅｎｇｅ）を実現する米作り「水稲ＴＣＣ戦略」に取り組んでいます。２０２１年４月に色彩選別機能を備えた「中央ライスセンター」が完成し、戦略的販売ならびに高温耐性品種「なつほのか」の作付け拡大を推進しています。需要動向を踏まえた業務用米「恋初めし」の生産拡大と併せて、消費者・実需者と結びついた生産・販売に着手し、水稲生産農家の所得向上に努めていきます。

西海みかん

中央ライスセンター

概要	令和３年３月31日現在
正組合員数	8286人
准組合員数	1万2977人
職員数	469人
販売品取扱高	119億6千万円
購買品取扱高	58億5千万円
貯金残高	1166億9千万円
長期共済保有高	5262億5千万円
主な農畜産物	西海みかん、長崎和牛、米、アスパラ、イチゴ、ブドウ、メロン

ニッポン いただきます紀行（あくりずむ）
JA全農提供FM番組（TOKYO FM／JFN38局）
毎週木曜日15:50～16:00（放送時間はFM局で異なります）
国産農畜産物の魅力や美味しさをお届けします!

「長野県産りんご三兄弟サワー」新発売

長野興農株式会社と共同開発

営業開発部は、長野興農㈱と共同開発を行い、長野県産りんご「秋映（あきばえ）」「シナノスイート」「シナノゴールド」の果汁を計20%使用したお酒「長野県産りんご三兄弟サワー」を7月21日より発売します。【営業開発部】

長野県生まれのオリジナル品種「秋映」「シナノスイート」「シナノゴールド」の3品種を「りんご三兄弟」と名付け、全農が商標登録しています。

長野県内では、近年台風や大雨など自然災害の影響により、りんご農家が大きな被害を受けています。県内のりんごを盛り上げようと、「りんご三兄弟」をはじめてサワーとして商品化しました。2者で協議し、3種類のりんごのブレンド比率にこだわることで、甘味と酸味を引き出した爽やかな味わいとなりました。

長野・山梨エリアおよび新潟・北陸エリア、群馬・栃木エリアのセブン-イレブン約2300店で先行販売を予定しています。

※店舗により、取り扱いのない場合があります。

「横濱ハーバー 湘南潮彩レモン」新発売

JAかながわ西湘15周年を彩る

神奈川県本部はJAかながわ西湘、株式会社ありあけと、焼き菓子「横濱ハーバー 湘南潮彩レモン」を共同開発しました。7月15日から県内JA直売所などで発売しています。【神奈川県本部】

昨年販売した「湘南ゴールドハーバー」の好評を受け、今回は同じくブランド育成に力を入れている「湘南潮彩レモン」を使用しました。

「夏場にも召し上がっていただける焼き菓子」を目指し、レモンの爽やかさを楽しめる味わいにしました。「湘南潮彩レモン」を皮ごとピューレにしたため、濃厚な香りとほろ苦さが合わさった奥深い風味も楽しめます。

パッケージは、西湘地区に面する相模湾と、さんさんと降り注ぐ太陽をイメージした、夏らしい色合いです。

JAかながわ西湘は神奈川県を代表するブランドとして「湘南潮彩レモン」の産地確立を目指しています。

神奈川県本部は今後も一次加工品を原料とした商品開発を通じて、県産農畜産物の認知度向上・ブランド力向上に取り組んでいきます。

8個入り、1080円（税込み）

JA全農のインターネットショッピングモール
JAタウンショップ紹介

UMAIZOマーケット（うまいぞー）

群馬県のほぼ中央部、榛名山の東麓にある市町村で、丹精こめて育てられたトウモロコシ「ゴールドラッシュ」は、粒ぞろいが良く皮が柔らかくて、爽やかな甘みがあります。おすすめの食べ方は、茎と葉の付け根を切り落とし、ラップに包まず皮ごと電子レンジで加熱する方法。ヒゲを持ってトウモロコシを振るだけで簡単に皮がむけ、おいしさもアップします。

しょうゆを塗って焼きトウモロコシにしたり、スープに入れたりしても、トウモロコシの甘みをお楽しみいただけます。

群馬県産トウモロコシ【ゴールドラッシュ】
2L 5kg……3400円（税込み）

ご注文はこちらから

▶ JAタウンはこちらから https://www.ja-town.com
▶ お問い合わせは shop@ja-town1.com

発行／全国農業協同組合連合会　2021年（令和3年）7月19日 発行（毎週月曜日発行）
第3363号　編集・発行人／広報・調査部　新妻成一
〒100−6832 東京都千代田区大手町1丁目3番1号 JAビル　TEL03（6271）8055

『JA全農トピックス』のツイッターはこちらから

私たち全農グループは、
生産者と消費者を　安心で結ぶ懸け橋
になります。